

熊本大学の保育者養成

本大学に於て、主として教員養成を目的とする学部は、教育学部である。此の学部では義務教育に關与する教員、即ち小学校、中学校の教員養成を主眼としているが、尚此外に高等学校や幼稚園の教員資格も取得出来るような組織になっている。

四年課程と二年課程 教育学部には、四年の課程と二ヶ年の課程の二コースがある。此の両コースと教員資格取得の關係についてのみよう。四年課程にすすみ、法規に定められた所定の単位を修得して卒業すれば、中学校、小学校又は、幼稚園の一級免許が取得出来るし、又専攻した当該学科についての高等学校の二級免も取れる様になっている。

二年課程の修了者は、所定の単位を修得すれば、中学校、小学校又は幼稚園の二級免及び高等学校の臨免がとれる仕組になっている。以上の様に、進学するコースによって、教員資格の一級及び二級が自ら分れている。

尚教員資格を得るために、大学で修得すべき学科や単位数等については、教員免許法に規定せられているが、此処では、その説明は、省略する。

幼稚園の教員となるには 本学部には、幼稚園の教員養成のための専門のコースは設けられていない。従って、幼稚園の教員を志願するものは、次の様な道を選ばねばならぬ。

幼稚園の一級免の資格をとるためには、四年課程に進学して、幼稚園を主専攻とし、小学校を副専攻として、幼稚園及び小学校の一級免をとるか、又は、小学校を主専攻とし、幼稚園を副専攻として、小、及び幼、の一級免をとるかなければならない。二級免の資格をとるには、同様の仕方、二年課程に進学すればよい。つまり、小学校コースを選び、必ず小学校の教員資格を兼ねて幼稚園の教員資格をとらねばならないようになっている。

(註、主専、副専とは修得する単位数や教育実習の期間等により区別される)

入学について 教育学部に入学希望するものは、志望のコース(四年課程又は二年課程)及び、専攻のコース(中学校コース又は小学校コース)を予め決めて、志願しなければならない。幼稚園の教員志願の者は、当然小学校コースをえらばねばならない。入学試験は、定められた国立大学入学試験期日に実施されるが、本大学では各学部一斉に行われる。

教育奨学資金の特典 教育学部の学生には、一般の奨学金とは別個に、教育奨学資金の特典がある。人物並びに学業成績優秀にし

て、且経済的条件に恵まれない学生に、詮考の上、二ヶ年間支給される。之は義務教育にたずさわらんとするものに与えられる恩典であるので、高等学校、及び幼稚園に就職した場合は、分割的に全額を返還しなければならぬ。

通信教育制度

教員養成を目的とする大学又は、学部には、文部省の規定による通信教育の制度が設けられている。之は、主として、現職教員のための再教育制度といつてよい。本学部に於ても此の制度をもち、受講者には、必要な所定の学科を修得すれば、教員資格二級のもの、一級に、臨免、又は仮免のものは二級にと、それぞれ昇格する道が拓かれている。此の通信教育による外に、更に現職教員のために、単位修得試験の制度がある。年一回施行されるのであるが、此の方法によつても、単位の修得が出来るのであつて、所定の単位数が揃えば、資格免許の切換が出来る。

本学部卒業生の就職状況

此処では、中学校及小学校に就職したものについては省略し幼稚園関係のみについてべることにする。

幼稚園の教員免許を取得して卒業したものは、昭和二十七年以降僅か十一名にすぎない。大部分の学生は、小、中の免許を取得する傾向にある。幼稚園の教員資格者の就職の状況は、十一名の中、公立幼稚園への就職者四名、残りの七名は、それぞれ小学校又は、中学校に就職している。

学部卒業生にして幼稚園教員資格保持者が何故幼稚園に就職することが振わないかその原因を検討してみよう。

その理由として待遇の問題をあげねばならぬ。太学の新卒者を、義務教育の教員と同等の待遇で採用してくれるのは、本県の場合、熊本市内の市立幼稚園のみである。他はうまくいっていいようである。私立には、財政上、この様な待遇はのぞめない。従つて新卒業生の幼稚園就職希望者は、市内の僅か七つの公立幼稚園に限定されることになりかねない。折角幼稚園の教員を目指して養成しても、就職の条件で、頓坐を来すことになる実状である。幼稚園のよい教師を養成して貰いたいという地元の要望とその待遇とがどうも ったりいかない。同級生が小学校に高い俸給で就職するのに、幼稚園にいったがため

に、低い待遇で我慢しなければならぬとなれば、小学校へ就職したくなるのも無理からぬことだと思ふ。此点、幼稚園と、義務教育の両方の教員資格が取得出来る国立大学の卒業生と、幼稚園の教員資格のみ与える大学の卒業生との差異があると思ふ。

更に、幼稚園の側から云わせれば、若い新進気鋭の新卒の教員を採用したくとも、待遇の点で敬遠しなければならぬことになる。何とか、此の両者の希望が容れられるような打開策はないものだろうか。

以上簡単に熊本大学教育学部の教員養成の実態特に幼稚園の教師養成を重点的に紹介した。

(熊本大学附属幼稚園 大崎サチエ記)

× × × ×

× ×